

平成31年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査結果 課題分析表 (中学校)

教科ごとの「教科の観点」における平均正答率の比較

葛西第二中学校

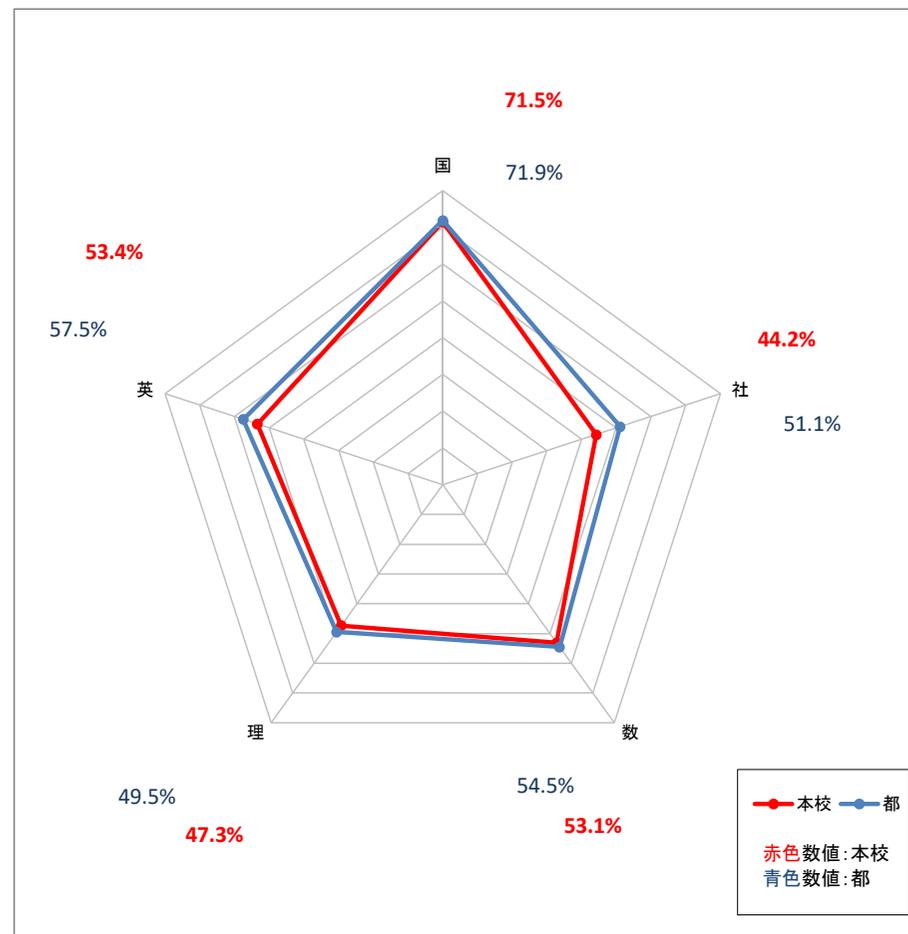
国語	教科の観点				教科の合計
	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	
東京都	74.8%	58.9%	79.3%	69.1%	71.9%
本校		57.9%	80.1%	67.1%	71.5%
都との差	-74.8	-1.0	0.8	-2.0	-0.4

社会	教科の観点			教科の合計
	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的な事象についての知識・理解	
東京都	48.7%	61.9%	41.1%	51.1%
本校	43.4%	53.9%	32.7%	44.2%
都との差	-5.3	-8.0	-8.4	-6.9

数学	教科の観点			教科の合計
	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	
東京都	31.4%	62.4%	63.3%	54.5%
本校	29.1%	62.1%	60.8%	53.1%
都との差	-2.3	-0.3	-2.5	-1.4

理科	教科の観点			教科の合計
	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解	
東京都	43.9%	60.2%	47.4%	49.5%
本校	42.4%	57.0%	45.3%	47.3%
都との差	-1.5	-3.2	-2.1	-2.2

英語	教科の観点			教科の合計
	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解	
東京都	46.1%	62.4%	59.2%	57.5%
本校	42.5%	58.6%	53.9%	53.4%
都との差	-3.6	-3.8	-5.3	-4.1



《都との比較にみる本校の状況》

国語の合計は-0.4下回っているが、話す・読む・聞く能力は都平均を上回っているため、今後は言葉の特徴やきまりに関する基礎的な事項を活用させる指導の充実が必要である。

数学の合計は-1.4下回っている。数学的な技能は-0.3と若干下回ってはいるものの、D層の割合が他の観点と比べて低く、基礎的な計算問題等は比較的定着していると考えられる。今後は、式の意味を考えさせたり、説明させることで、数学的な考え方がより定着するような指導の工夫が必要である。

社会は全体的に大きく下回っている。限られた時間ではあるが、1年生の内容すべての復習が必要である。

理科の合計は-2.2下回っている。「観察・実験の技能」が-3.2と他の観点に比べて低いため、授業の際は、関連した内容が定着するような指導が求められる。

英語は-4.1下回っている。特に「言語や文化についての知識・理解」が都平均に比べて-5.3と大幅に低いため、C層、D層に対して基礎の定着が求められる。

《授業改善のポイント》

本校では「学習環境の整備」「家庭や地域との連携」「健康な心と体」「わかる授業」「問題解決力の育成」の5点を、「生徒の学習意欲の向上」につなげて「学力向上」を図るという「確かな学力向上プラン」を策定している。その一環として、「全校補習日」を設定し、毎週火曜日に数学の小テストを年間を通して行っている。

また、「研究授業」を定期的を実施し、日常的に教員同士が授業を見合うなど、学び合いをを大切にしている。各教科では、「指導と評価の工夫と改善」に取り組んでいる。

今後は、各教科の課題を明確にし、ICTも取り入れながら生徒の意欲を引き出す授業づくりに努めていく。話し合い活動を積極的に取り入れ、深い学びにつなげられるよう、全教員の共通理解を図る。

《家庭・地域への働きかけ》

生徒一人一人が基本的な生活習慣や家庭学習の習慣が確立できるよう、家庭と連携して指導する。また、地域での積極的なボランティア活動を推奨・継続し、家庭・地域とともに生徒を育てる風土を維持していく。2年生が行う「地域面接」では、地域の方々へ協力してもらい、生徒のキャリア教育の一助としていく。

